

## 複言語話者の言語学習ビリーフと日本語・日本語学習への意識調査

—複言語を使用する日本語学習者3名を事例として—

よしなが ともみ 良永 朋美・九州大学大学院

本研究は、3名の複言語話者に焦点を当て、彼らが持つ言語学習ビリーフと日本語学習に対する意識を調査するために半構造化インタビューを行った。インタビュー結果はM-GTAを用いて分析し結果図にまとめた。複言語話者である調査対象者からは共通する概念が抽出され、それぞれの関係について考察した。

### 1. はじめに

言語学習ビリーフとは「言語学習の様々な側面・次元について、学習者が抱く信念の総体」(Horwitz1987)であり、学習者のビリーフと教師のビリーフが合わない場合、学習動機の低下や習得、学習ストラテジーに影響を及ぼすと考えられている。木谷(1997)では、日本語学習者の言語学習や言語についてのビリーフの様相を地域別・国別に分析することは、日本語教育の場に重要な情報を与えると述べられているが、果たして地域や国別に分析するだけで十分なのかといった疑問もぬぐえず、学習者を分類するのは出身国や母語だけではないという指摘もある。グローバル化が進む現在、日常的に複数の言語を使用する人々も増加していることが容易に予想される。姫田(2011)は「程度に関わらず複数言語を知り、日常生活においてそれらを使用している人」を複言語話者と定義している。

そこで本研究では、複言語話者に焦点を当て、彼らが持つ言語学習ビリーフと彼らが日本語や日本語学習についてどのように考えているのかを明らかにし、それらと彼らの日本語学習がどのように影響しているかを検討することを目的とする。

### 2. 研究方法

Horwitz(1987)により作成されたBALLI質問紙を用いて項目を作成し、半構造化インタビューをおこなった。インタビュー時間は30~60分であり、内容はすべて文字起こしし、木下(1999)により提案されたM-GTA(修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ)をもちいて分析をおこなった。

### 3. 研究対象

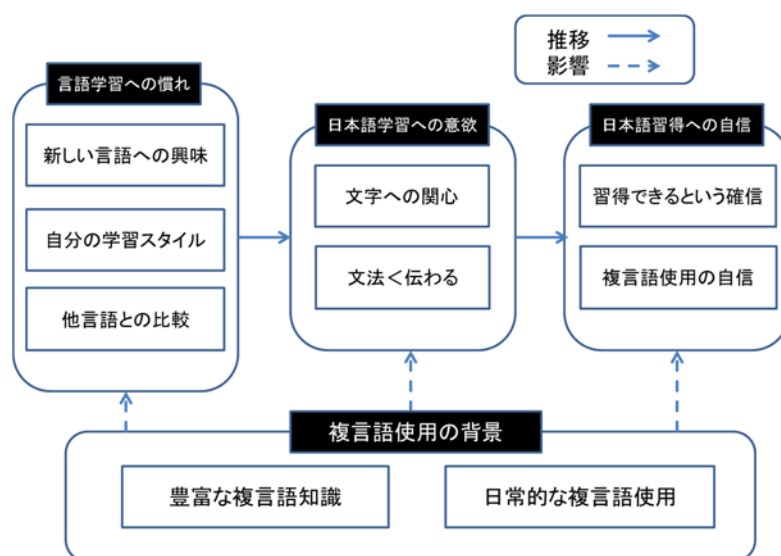
研究対象は、あらかじめ「日常生活でどのような言語を使用しているか」を確認したうえで、上記の定義に当てはまる複言語話者を3名選定した。研究対象である複言語話者は全員日本語学習者である。対象者の詳細は以下の表にまとめる。

| 対象者 | 出身国   | 第一言語   | 学習経験のある言語              | 日本語学習歴 | 日本滞在歴 |
|-----|-------|--------|------------------------|--------|-------|
| A   | ルーマニア | ルーマニア語 | 英語、ドイツ語、<br>スイス語、フランス語 | 約1年    | 約1年   |
| B   | ルーマニア | ルーマニア語 | 英語、ドイツ語、<br>スイス語       | 約1年    | 約1年   |
| C   | フランス  | フランス語  | 英語、ドイツ語                | 約6か月   | 約6か月  |

表：調査対象者

#### 4. 結果・分析

M-GTA の分析結果図は以下ようになった。各欄の名称は、インタビュー中の発話から抽出された概念を表すものである。なお、紙面の都合上、分析ワークシートや詳細な発話例は省略する。



図：結果図

調査対象者は全員複言語を使用する環境にあるため、新しい言語に興味を持っていること、自分の学習スタイルを持っており学習する際には他の言語との比較を行っていることが分かった。また、日本語の文字に対して「美しい」「アートのような」といった関心を持っていること、文法よりも伝わることに重きを置いていることもうかがえた。これらにより彼らは日本語を習得することに自信を持っていることもわかった。

また、彼らは自身の複言語を使用する背景についても言及しており、彼らが日常的に複言語を使用していることが<言語学習への慣れ>や<日本語学習への意欲>、<日本語習得への自信>に影響を与えていると考えられる。

#### 5. おわりに

今回は3名の複言語話者を対象として、彼らの言語学習ビリーフについての質的な研究を試みた。しかし、今回の結果が複言語話者の言語学習ビリーフであると断言するには、まだまだデータが少ないことは否定できない。したがって、今後は調査対象者の人数を増やすとともに、出身国や第一言語、使用言語などにさらなるバリエーションを増やして調査を行っていききたい。

#### <参考文献>

木下康仁 (1999) 『グラウンデッド・セオリー・アプローチ：質的実証研究の再生』 弘文堂

姫田麻利子 (訳) (2011) 「複言語複文化主義とは何か ダニエル・コスト、ダニエル・ムーア、ジェヌヴィエーヴ・ザラト」 『大東文化大学紀要』 第49号, pp.251-268.

Horwitz, Elaine K. (1987) "Surveying Student Beliefs about Language Learning." in Wenden, Anita & J. Rubin (eds). *Learner Strategies in Language Learning.*, pp.119-129. London: Prentice-Hall.